
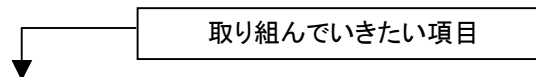


地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開所時より運営理念を掲げ、共有化し理念の実現に向けて取り組んでいるが、地域密着の観点が理念に明記できていない。	○	地域密着型のホームであることを再度認識し、そのもとにサービスの展開を行っていく。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的に職員間でミーティングや勉強会を開催し、理念の共有・実践に向けて取り組んでいる。	○	新人・異動・出向受入れ職員に対しても運営理念を伝え、共有化を図っている。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ホームにおける理念は玄関に掲示し、ご家族・来客者に公表しているが「地域の中で暮らす」という意味では明文化出来ていない。	○	ホーム内での暮らしはもとより、地域の中で暮らしていく観点・意味をまずは職員に啓発し、管理者・職員共に取り組んでいきたい。
2. 地域との支えあい				
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	日頃からあいさつ時などにさりげなく立ち寄って頂ける様に呼びかけているが、実際来て下さる所までは交流できていない。散歩に出て隣近所の方と出会った時は利用者を含め挨拶を交わしている。	○	地域の方へ行事やイベント等への参加呼びかけを行い、少しずつでも取り組んでいきたい。ホームで作ったおやつを近所へ配る等働きかけたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の行事である彼岸市や役場の作品展を見に出掛けているが、自治会や老人会に一員として入居者様が活動するには至っていない。	○	ホーム近隣の自治会に属する職員が昨年末入職されたこともあり、地元の人々との交流に際して地域を理解し活動へとつなげていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	ボランティアや研修等の受入れは行っている。2ヶ月に1回ホームの連絡協議会を通じて地域の住民との意見交換を実施している。	○	地域の「障害老人を支える家族の会」へ参加し、認知症の方を抱えるご家族の悩みや不安・葛藤など、本当に生の声を聞かせて頂いている。多くの職員が参加出来るように努めたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員ミーティングにおいて項目を確認し自己評価を行い、外部評価を受けた後もミーティングにおいて確認し、評価結果を次のステップに活かせる様取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、ホームの連絡協議会として地域住民やスタッフで委員を構成し、会合では運営状況を報告、その他相談・助言等によりサービス向上につながる様取り組んでいる。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議において総合福祉課担当者様との意見交換を行う他では、行き来する機会が少ない現状である。	○	市町村との連絡を密にとれる様、ホーム側から積極的に声かけできる様、そしてサービスの質の向上につなげられるよう努めたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	各種研修会において権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会はあるが、一部の職員にとどまっている。	○	資格取得勉強の際触れるがそれでは不十分であり、きちんと研修等により学ぶ機会を得て多くの職員が理解し、そして活用へと動く様取り組みたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入職の際や伝達講習会において虐待がないよう徹底した教育を受けており、職員は常に心掛けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約の際には重要事項説明書を基に説明し、ホームにおける生活内容についても実際見学して頂くなどし、疑問点も尋ねている。</p>	<p>○</p> <p>ホームで受付を行っている場合、系列の事務所(ケアプランセンターことぶき)で受付を行っている場合があり、金銭面についての具体的な契約は事務所で実施しており、常に連携を図る必要があると感じている。</p>
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>管理者(代行含む)を主とし、常時苦情・問い合わせを受け付けている他、適宜問いかけを行い、意見が出た場合はすみやかに対処出来る様心がけているが、まだまだ対処しきれないのが現状。</p>	<p>○</p> <p>意見・苦情・不満等あっても、中には遠慮されたり思いを表すことが出来ない方もおられるので、スタッフがいかに汲み取る事ができるか課題である。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月、サービス利用明細書に付け加え、近況報告書を記入し送付している。併せて定期的になごみ便りを発行し配布を行っている。</p>	
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見・不満・苦情に際し受付窓口の案内を玄関に掲示し、毎月の近況報告書にも苦情受付の案内を記入して家族様等へ繰り返し伝えている。</p>	
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>定期的に関くミーティングの他、常時運営者・管理者は意見や提案を受け付け、関係者と協議し反映出来る体制を整えている。</p>	<p>○</p> <p>今年3月より大幅な勤務シフト変更を行ったが、職員の意見が基となり運営者・管理者・職員とで協議し反映された形となった。</p>
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>利用者さんの生活の流れに沿って、必要な時間帯に必要な職員が確保出来る様に常に職員間で話し合いが行われ、運営者等関係者との協議を行っている。</p>	<p>○</p> <p>今年3月に大幅なシフト変更を行い、日勤帯の職員を増やす事でサービスをより良いもの出来る様取り組んでいるが、柔軟な対応が出来るよう利用者を含め常に検討している。</p>
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>異動や離職の際はすみやかに替わる職員を配置し、利用者へのサービス提供に支障をきたさない様、異動・入職職員・管理者を交えミーティングを行っている。</p>	<p>○</p> <p>系列の特養との相互研修を昨年11月より実施。現在は特養職員を受け入れるのみで、こちらからの出向は今後予定しているが、受入れは利用者にも評価を得ておりサービス向上につながるものと考えている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人内での勉強会・伝達講習会の開催や外部研修へも積極的に参加できる体制は整っているが、継続的な全職員の育成計画・実行には至っていない。</p>	<p>○</p> <p>各職員が意欲的に研修・勉強会へ参加する事が求められ、また研修後は実際のケアに活かす事ができる様取り組んでいきたい。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>併設事業所とは日々情報交換等連携を行っているが、地域の他事業所とは業務を通じての連絡等による関わりに過ぎず、相互訪問・勉強会等は行っていない。</p>	<p>○</p> <p>広域連合とは相談員の来苑もあり関わりがあるが他の居宅介護支援事業所等は系列施設を通じての連携にとどまっており、ホームからの直接的な言葉かけに取り組みたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>職員同士で悩みの共有は行っている。法人主催のレクリエーション、職員親睦会による食事会、研修旅行などがストレス解消にもつながっている。</p>	<p>○</p> <p>スタッフの休憩場所も入居者が利用しておられる為、十分な休憩場所とは言えず、食事介助は休憩と兼ねており改善を検討したい。</p>
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>運営者と適宜職員が話し合いの場を持ち意見交換を行い、またアドバイスの場としてステップを踏んで取り組める様関係が構築されている。</p>	<p>○</p> <p>職員個々の利用者に対する想いは以前より伝わっており良い動きであるが、自身のスキルアップの観点も忘れず向上心を持って取り組める様配慮する。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>入居前の面接においても心配事等うかがっているが、初期の段階で受け止め対応していくには至っておらず、入居後徐々に関係を築いている。</p>	<p>○</p> <p>本人とゆっくり話し合える機会を設け、アセスメントが行えるよう取り組みたい。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>家族との面接においても心配事等うかがっており受け止める努力は行っているが、どこまで引き出せているか不安に思うこともある。</p>	<p>○</p> <p>家族ともゆっくり話し合える機会を設け、アセスメントが行える様取り組みたい。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容に対し、ホーム内において回答できる範囲で伝え、ホーム職員では不明な件は系列施設の相談員へ連絡を取り対処している。	○	相談援助実務経験職員が少なく、また未熟で多くの職員は相談援助技術を学んでおらず、系列施設との連携を図りながらホーム職員が学んでいかなければならない。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新規申込者に対しホーム見学・案内を促し、説明を行いながら利用に向けて安心して頂ける様アプローチを行っている。	○	何度か足を運んで頂き、納得の上で利用して頂ける様積極的な働きかけを行いたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者さんにサービスを提供させて頂いている気持ちを忘れず、利用者さんと共に過ごして学び、そして支え合う姿勢であるよう心掛けている。	○	系列の合同ミーティングにおいても、利用者さんがいての私達であることを皆で再確認している。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	御家族様との情報交換を通じて現況報告や今後の希望を伺う等し、又本人さんを含めた話し合い等により関係を築いている。	○	面会に中々来る事が出来ない御家族との連絡は文章や電話に頼りがちであり、関係を築いていくにはこちらからのアプローチを大切にしたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族さんと本人さんの関係を業務上必要な範囲でスタッフは把握し、困り事や悩み事等があれば伺い、その他イベント等実施して関わりを持つ機会を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人さんにとって馴染みのある物や思い出のある物等を居室(ホーム)へ持参して頂ける様にし、時には本人さんの自宅近をドライブする等取り組んでいる。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者さん同士の関係作りや支え合いは、当ホームの理念でもあり取り組んでいるが、実際のところ利用者さんの身体・精神面における状況の差も大きく、利用者さん同士の関わり合いが一部に限られている。	○	利用者さん同士が関わりを持つには、スタッフが積極的に介入し、又スタッフ自身が支え合う関係作りを意識して取り組まなければならない。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約が終了するケースは長期入院に伴う退所他、系列施設への転所が主であるが、スタッフが自主的に面会へ行くなどし利用者さんとの関係を大切にしている。	○	サービス提供終了後も必要に応じてホームで対応できる事があれば関わりたいと考えている。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者さん・家族さんへホームにおける生活を送られる上での要望をうかがい、認知症対応型共同生活介護計画策定の際の基として取り入れている。	○	潜在的な希望・意向が把握でき生活に反映していける様に、日々の関わりを大切にコミュニケーションを図りたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	把握できている方もおられれば、漠然とした経過や記録書による把握だけの方もおられる。	○	各担当スタッフが主となり把握に努め、職員間で共有し利用者さんの望む暮らしへのお手伝いが少しでもできる様にしたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	各担当スタッフによる日課計画表・アセスメント表への記入や記入の為の面談等の他、日常的な関わりから暮らしの把握に努めている。	○	暮らしに対する視点は当然利用者さんとスタッフでは違いが出てくるものと思うので、利用者さんの視点を大切にするようにしたい。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	各担当スタッフによる介護計画原案作成後、サービス担当者会議で開催して意見聴取を行い計画を修正している。意見聴取が本人及び同ホームスタッフによるものが多いのが現状である。	○	より良い介護計画策定の為には、本人さんの関わる必要な関係者から幅広い意見を取り入れなければと考えている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しは随時行っているが、変化に伴う介護計画の修正が追いつかずケース記録への記入にとどまっている。	○	利用者さんに変化が生じた際、速やかに関係者へ意見をうかがう等し、介護計画の見直しが行える体制作りが出来ればと思う。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に日々の様子を記入しており、介護計画に基づくモニタリング記録、特変状態等もケース記録として記入しスタッフはいつでも読める様になっている。この記録を基に介護計画の修正を行っている。	○	日々の出来事や様子等は毎日記入しているが、特変状態が発生した際相談で受けた際など関わった職員がもれなくケース記録として残せるようにしなければならない。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	当ホームと同法人の特養ホーム、居宅介護支援事業所や系列の老人保健施設、病院と連携を取り協力いただいている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	ホーム近くに警察や消防があり連絡体制を整えている他、ボランティアの受け入れや役場・老人クラブとも連絡を取り協力いただいている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人さんの状況や要望に応じて同法人・系列施設とまずは連絡を取り合い、必要と思われるサービスへとつなぐことができる様支援を行っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	併設の居宅介護支援事業所との連携が中心になりがちであり、地域包括支援センターとの関わりがまめに取れていない状況である。	○	利用者さんの意向・必要性に応じてすぐに地域包括センターと協働できるよう、日頃から関わりを持つようにしたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主に併設の医療機関での受診であるが、本人さんや家族さんの希望に応じて他の医療機関であっても受診できる様体制を整えている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	○	<p>当ホームに看護職員の配置がなく、健康管理の面で不安を抱えている現状もあり、併設病院の看護師さんに指導いただいている。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	○	<p>スタッフが自主的にお見舞いとして入院先へ訪ねに行く事はあるが、ホームとして医療機関との連携を構築していく事ができればと思っている。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	○	<p>重度化や終末期への対応については内外での研修等においても学ぶ機会があるが、スタッフ個々の意識そしてチームでのケア向上へと発展していけるよう取り組みたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	○	<p>いつ利用者さんに変化が起こりうるかはわからないので、すぐにホームにおいても対応が行える様、主治医を中心とし連携を図り体制を整えておかなければならない。</p>
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		<p>住み替わり時には本人さん・家族さん・ケアマネージャー他関係者との情報交換を行い、極力不安などを解消できるように努めている。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は全ての利用者様に対して常に人生の先輩として尊敬する気持ちを持って接する事と徹底している。個人記録等は所定の場所で管理し、その記入は場所と時間を決めて行っている。	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	日々の会話を大切にし、利用者様の言葉の中から思いや希望を感じ取れるよう心掛ける。	○ 利用者様一人一人に一番理解しやすい伝達方法、意志を引き出す方法を全職員が共通して認識し同じ対応ができる様にしたい。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食時にその日の予定(入浴、病院診察など)を話題にし、利用者様の都合を確認する。外出等の希望があれば対応を検討する。	○ 外出支援等の付添をする職員の確保、利用者様の希望に対応する為の職員の勤務体制の見直し強化。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	行きつけの店がある利用者様は店で、ない利用者様は系列施設の散髪日(1回/月)に行くか、職員が散髪する。どの場合も利用者様の希望に応じて行う。	○ 行きつけの店、なじみの店員、髪型など記録し、利用者様が思い出せない時にフォローできるようにしたい。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者 と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	主食以外は給食ですが、畑で採れた野菜やご家族様差し入れの山菜・果物などを調理して皆で頂きます。食器出しから食後のテーブル拭きまで、皆さん思い思いにできることをして食事時間を過ごされます。	○ 興味のありそうなこと、リハビリになりそうなことにお誘いして一緒にする事で自信をつけて頂いたり、充実した食事時間にする。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	かかりつけ医の指導を守れる範囲で、できるだけ希望に添えるよう調整する。	

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	利用者様の排泄パターン・誘導・声かけまでを全職員が共通して認識し同じ対応ができる。	○	レベル低下・体調不良時の対応がスムーズに行える様、日頃から利用者様の情報は全職員が共通認識する。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	一応の時間は決めてありますが、当日の体調や気分等で臨機応変に対応します。入浴方法についても利用者様の好みに合わせ楽しい時間になるよう心掛けている。	○	スムーズに入浴できない利用者様について、ミーティング等で検討し改善を目指す。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	利用者様の習慣・体調に合わせて日中でも時間を決めて横になって頂いている。ベット周りに私物を飾ったり、布団も慣れた物を使用する事で安眠を心掛けている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑仕事や植物を育てる際に参加して頂いたり指導して頂いている。利用者様が自分で出来なくても、それ以上に満足されるよう心掛けている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者様の状態によって家族様とも話し合い、お金の管理・買い物・外出を行っている。管理が無理な利用者様にも希望のものを買いに出かける為、苑でお預かりする場合もある。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	苑外への散歩や外出など家族様にも協力いただいて、ご希望に添えるよう調整している。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	苑企画の外出の他にも利用者様の希望によってドライブしたり、家族様に希望の旨お伝えして日程調整や準備のお手伝いをします。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	苑内に公衆電話を2台設置いつでも使えます。手紙などの郵便物は届き次第利用者様にお渡しし、状態によっては朗読、返事の代筆もお手伝いします。電話は居室にもあり希望時に取り次ぎます。	○	年賀状や暑中見舞いなど季節の便りを出す事で季節を感じたり家族を思い出すキッカケ作りをしたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	季節ごとの苑の行事や系列施設の行事には家族様も誘って皆で参加します。普段から明るい雰囲気作りを心掛けています。	○	居室はもちろんリビングにもソファを設置しゆっくり会話ができるスペース作りを心掛けています。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会に参加するなどして身体拘束について正しく理解し業務にあたるよう心掛けている。身体拘束ではなく見守りで利用者様の安全を確保したいと考えている。	○	身体拘束についての知識を身につけると共に利用者様の状態を常に把握し、先の行動を考えて見守り誘導できるよう心掛けている。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は安全の為に施錠しますが、日中は玄関・正面共に開放しており自由に入出りできるようになっています。玄関へ通じるリビングに常に職員が待機することで必要に応じて付き添い声かけを行います。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	日中は掃除・食事・ティータイムの声かけを含め、1時間に1度程度の訪室、夜間は2時間毎の巡回があり利用者様の所在や居室での様子も、もれなく把握できるよう努めています。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	調理に使う包丁は台所で職員と使い、その後は数量を確認し所定の位置に片付けます。他にヒゲ剃りには電気カミソリを使用して頂き、ハサミ等は利用者様の状態に応じてリビングで使用して頂く。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	年2回地元消防署の指導を頂いて避難訓練や火災予防の為の知識を得ている。利用者様一人ひとりの状態を把握した上で考えられる全ての事故を頭において見守り対応する。	○	職員間で情報交換を密にし、利用者様一人ひとりに現状に合った見守り対応ができるよう徹底する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	法人内の勉強会・伝達講習会等に参加し、知識を得ると共に初期対応の訓練を行っている。	○	初期対応からかかりつけ医への連絡までの流れをマニュアル化し職員ステーションに常備する。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地元消防署の指導を頂いて、年2回の避難訓練と災害時の避難方法についての知識を得ている。緊急避難が必要な場合は、まず併設特養ホームから応援をもらい対応する体制になっている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	ご家族様の介護計画書等を基にして、起こり得る事項やその対策をお話し希望・要望あれば併せてうかがっている。	○	ご家族様へ説明するにあたり、まずは職員が利用者様に起こり得るリスクをとらえ認識しておかなければならない。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者様一人ひとりの既往症を含め現在の体調をよく把握した上で、声掛けや様子観察を行い少しの変化にも速やかに気付けるよう心掛けている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者様に了解を得て病院受診につき添い、処方薬の説明についても一緒に聞く。用法・用量等の指示は全職員に伝達し徹底する。症状の変化については、しっかり観察し報告する。	○	指示通りの使用法がやむおえずできない場合は、必ず処方医に確認し全職員に伝達徹底している。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	利用者様一人ひとりの排便サイクルを確認し、既往症も踏まえてスムーズな排便を続けられるよう、運動・カスピ海ヨーグルト(ホームで作ります)・寒天など利用者様と話し合っ、一人ひとりに合った方法で便秘対策を行っている。	○	運動や飲食等で便秘対策を行っても排便がない場合は、かかりつけ医処方の下剤も使用しますが、薬に頼らない排便を目指しこれからも取り組んでいきます。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	利用者様のレベルに合わせて、声かけ・見守り・介助を行っている。治療が必要な場合は利用者様や家族様に了解を得て併設歯科医院の往診を受けている。	○	併設歯科医による口腔ケア講習を全利用者様・職員参加で行い、口腔状態を確認した上で一人ひとりに合ったケアの仕方を利用者様の希望を中心に必要な治療を含めて見直し実践している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりに栄養士による栄養ケアマネジメントを行い、状態に合った栄養バランスを考えている。食事時間やティータイムの他にも利用者様の取りやすい方法で一日の水分・食事を摂取して頂いている。	○	食事制限のある利用者様に食事に対する満足感が得られるよう工夫する取り組みを続けている。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策委員会を設置し、併設施設と連携しミーティングを実施する他、医師の方からも適宜指導頂いている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫の中身の定期的なチェック、食器乾燥機の使用、手指消毒の徹底を季節を問わず続けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	ホームの玄関は雨天時を除き全開にしており、誰でも自由に出入りが行える様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間作りにあたっては利用者様の意見をうかがいながら模様替え等を行い、また配置換えなどにより混乱される事がないよう注意している。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビング以外にもソファやイスを配置し、利用者様一人ひとりにお気に入りの場所ができるよう工夫している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の好みや家族様の要望を取り入れ植物、家族の写真、位牌などを飾って、それぞれに居心地の良いスペースを作り出している。	○	居室内で出来るだけ自立した生活を続けられるよう、使いやすさや危険防止などについて提案し、利用者様や家族様と共にレイアウトを考えていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	利用者様が居室におられない時でも了解を得てこまめに訪室し、温度湿度の調整や換気を行っている。におい対策としてはご本人のプライドを傷つけないよう気を配りながら掃除している。	○	失禁によるにおい対策として、トイレ誘導・介助、パット類の使用を提案するが、プライドが高く受入れを拒否されるので、アプローチの仕方を変え取り組んでいきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下やトイレには多くの手すりが設置してあり活用。ホーム内に段差はなく安全に移動することが可能である。床も転倒によるダメージを和らげる様になっている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	利用者様が出来る・したいと思われることを見守り、それとなくフォローする事で自信を持って頂けるよう心掛けている。	○	自分に自信を持つ事で精神的に安定し生活全般に意欲が出るよう、利用者様一人ひとりにあつた提案をしていきたい。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	居室前のスペースは利用者様の庭として花を育てられたり草ぬきをされたり、好みに合った使い方をお奨めしている。リビングに続くウッドデッキでは犬を飼っており皆で可愛がっている。	○	西陽の当たるウッドデッキだが、午前中を中心に夏場の活用方法を考えていきたい。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

正直言いますと、私をはじめスタッフ一同は認知症の方への対応等、まだまだ勉強不足で入居者の方へも迷惑ばかりお掛けしていると思います。そんな中でアピール出来る点と言えば、自然に囲まれた中のホームであり、すばらしい庭・畑、そして鯉のすむ池等がある事です。近くの野山では山菜や野イチゴ等も採れ、四季を感じる事が出来ます。畑には入居者の方が作られた野菜があり、皆で収穫を喜んでいます。中庭の鯉のエサやりは入居者の方がされ、生き物との触れ合いもあります。又近くに花回廊があり、季節毎の花を楽しんで頂いています。こんな立地条件の良いホームは中々無いと思います。これをもっともっと活かしていける様、スタッフ一同頑張っていきたいと思えます。